

参加者からの感想と質問

<p>ジェンダー社会科学専攻 M1 の学生です。発表ありがとうございます。少子化や不妊のニュースが生理不順の不安につながるのは何故ですか？日本人女性は生理不順や、血の多さが子宮内膜症など、不妊の原因になる病気に繋がるということを性教育で教わらないと思うので、メディアの報じられ方と自身の生理の状況がリンクしないこともあると思いました。</p>
<p>今回のご講演で Maura さんが月経ではなく生理という言葉を選ばれた理由を知りたいです。</p>
<p>マウラさんへの質問です。 マウラさんの報告では「月経」ではなく、「生理」という単語を使っていました。 その理由や意図はありますか？ 生理が「不規則」なのは、「異常」でしょうか？ また、「月経困難症」などの「医学化」については、どのように考えますか？ 女性が自分の身体をどのように捉えることになるか、関心があります。</p>
<p>お話ありがとうございました。マウラさんに質問です。日本は月経について保守的な見方をしていると認識しており、日本よりも英語文献でタブー視されているというのが意外でした。海外では月経の扱いは宗教と関係があるのではないかと考えているのですが、何か知見がありましたらご教示ください。（温水洗浄便座のメーカーでビデの研究をしています）</p>
<p>マウラさんに質問させてください。 私は月経痛・PMS と特に化学繊維を使った生理用ナプキンとの関係性について大変興味があるのですが、月経痛・PMS と生理用品の関係についての研究について、何か情報がありましたら教えてください。</p>
<p>貴重な発表ありがとうございました。マウラさんへ質問です。本日の研究発表・結果関係の published paper(s)がありましたらぜひ教えてください。とても興味があります。</p>
<p>すみません、最初の方が ZOOM に入室できずきまもらしたかもしれませんが、マウラさんとして他の国との比較などありますか？ おそらく欧米と儒教国、宗教などのからみもあり、月経も含め、性に関する問題をどう友人、親、先生（学校や医師）と話すことと、それら社会的・文化的要因がからむのでしょうか？</p>
<p>生理があることで仕事ができなくなることを考えるとピルでコントロールしてしまったほうが良いという方が多く、生理がどうしてあるのかを理解できてない人が多い気がします。ピルでコントロールすることは本当にカラダにいいことなのかご意見いただきたいです。</p>
<p>マウラさんに質問があります。市販のナプキン（例えば花王）は確かに便利ですが、その材料はポリエステルであることがパッケージに書いてあります。ポリエステルは女性の身体にどのような影響を及ぼすのかについて（特に生理中一番子宮が弱い時）、ご存知のことがあれば、ご教示いただきたく存じます。よろしく願いいたします。</p>
<p>そして、もう一つ、質問ではありませんが、自然療法の先生のお話を聞いたことがありまして、「月経」の「月」について、私は以前「month」と思っていました。その自然療法の先生のお話によると、「moon」to「month」ではなく、「moon」の意味だと教わりました。28日の周期は月の動きとも関係しているようです。</p>

生理についての講演は、あまり聞くことがないので貴重でした。個人的は、PMS に比重を置いたお話を聞いてみたいです。
大変興味深く、このような講座は女性の一生に着目するお茶大だからこそ企画だと思いました。先ほどお話の中で出ていた論文をぜひ読ませて頂ければ大変嬉しく思います。今日は大変貴重なお話をありがとうございました。
海外や現在の日本の教育の現状なども伺えて興味深かったです。
大変興味深かったです。私もジェンダーやリプロヘルスの研究をしており、海外の ASRH についての国際協力の活動も行っていました。途上国(ケニア)では男性にも月経のことを知ってもらうようなユニセフの活動もあつたりしますが、日本ではまだ性教育の壁が高く、月経教育も壁が高そうだなと思いました。マウラさんの論文のリンク先など教えて頂ければありがたく思います。本日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。
月経に関して、まだまだ普通のこと人にとって生理的なものにとらえられていないのだということ再認識した
月経アプリの事や性教育の手引きが改訂されたことなど、性教育の実践で即活用できる情報が得られてよかった。アドバンス助産師更新に向けて修了証を発行してもらいたいと思いました。
月経教育がアメリカでも男女別と聞いてやはりなと思いました。大変面白かったです。知り合いの50歳代のロシア人女性と話したところ、ソビエト時代ほとんど性教育を受けたことがなく、子どもが体のどこから生まれるかも知らなかったと聞き、びっくりしたことがあります。国際比較も興味深いですね。
女性にとってとても身近な話題であり、大変興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。
本日はありがとうございました。移動でなかなかWi-Fi状況が悪く、聞き漏れてしまったところがありました。性教育を実践しているので、驚くことが多かったです。
日本の性教育は他国から比べて遅れていると言われるが、月経教育においてはそう変わらないことがわかって新たな知見を得た。私も小学校5年生に男女一緒に初経と精通について伝えているが子どもたちは自然に受けててくれる。
マウラ先生のご講演の中に、今回の研究論文に入らないとは思いますが、アメリカでの現状をさらに入れていただき良かったと思います。今回の研修内容につきましては、大変興味深く視聴させていただきました。これから、ピアとして学生が生徒さんへ性教育する際に、参考になる内容がありました。ありがとうございました。
私も今修士論文で、月経困難症を持つ思春期女子についてまとめているところなので、大変興味深く拝聴いたしました。もっとたくさんお聞きしたいと思うほど有意義な時間となりました。ありがとうございました。
大変勉強になりました。母と初経前の娘対象や、大人の女性向けに月経教室を開催していますが、母親のほうがかたがたなどマイナスなイメージを持っていたり、かかりつけの婦人科を持っていないため痛みを我慢しているという声をよく耳にします。だからこそ、これから月経を迎える女子たちには相談して(声に出して)いいんだという事を伝えています。今日のお話もぜひ参考にさせていただきます。ありがとうございました。
大変勉強になりました。助産師で性教育に携わっています。学校への出前授業は、時間も短く難しいのですが、繰り返した、発達段階に応じた内容で、月経教育をしていくこと大切ですね。、個人的にも伝えていく活動していこうと思いました。

先日大学で森先生のご講義を拝聴し、それをきっかけに参加いたしました。
 今回は月経について理解が深まるセミナーでした。最後に話題に上がった男女別々の性教育について、私の高校ではそもそも保健の授業が共通で行われ、性教育も同様に受けました。少し気まずく、それに気を取られて今ではそこで学んだ内容もほとんど覚えていません。男女で性教育を同時に行う時は、教える先生も男女同時に、お互いの体の生理について理解できるように指導要領を考える、また授業方法を工夫する等、したほうがいいのではと今回のセミナーを通して感じました。

ご準備がたいへんだったことと想像しますが、日本と海外の研究者のお話を同時に聞くこの形式は新型コロナ禍下ではたいへん有効であると思いました。内容もとても充実していて、現状と分析、問題の所在、今後のあり方と、とてもクリアにまとめられたセミナーでした。ありがとうございました。

月経について、生理について。私のまわりには「正直ないほうが良い」「子供も産んだし、必要ない」「生理痛がひどいからいらぬ」とネガティブととらえられる受け止め方をしている人が多く、やはり生理=子供を産むためのもの とらえている人が多いなと本当に感じています。ホルモンの働きなどを考えると生理から学ぶものはとても多いと思ひ、生理が女性のカラダを守っていると私はいつも感じているのですが、そういう学びをしていないからなのか、生理=いらぬもの になってしまうのは本当に悲しいなと思っていました。今日の先生方のお話を聞きながら、現状を知ることでもできましたし、やはり女性としてとても大切なものだと思ひ再確認出来た気がしています。緊急避妊薬が承認され、日本でのピル普及もこれから顕著になるのではと思ひていますが、生理におけるカラダへの理解という意味で本当にたくさんの女性が学ぶ場所を作ってもらいたいなと思ひています。今日は本当にありがとうございました。

身近なテーマでわかりやすかったです。大学生の知識や経験、とても興味深かったです。加えて社会人になって、生理休暇をどう扱うかという点にも興味があります。男女雇用機会均等法のあと、労働基準法から「生理休暇」という言葉は消えましたが、月経による身体の不調によって会社を休むことは認められています。私個人は、昔企業で働いていた時、月経でなくても「生理による休暇」をとる人がおり、それが職場における女性に対する偏見につながっているように思っていました（それが嫌で、無理をしても1日も生理休暇をとらない人もいました）。社会の中で、月経による心身の不調をいかに位置づけるのかも重要な観点かと思ひます。

私も生殖分野に関心があり、非常に興味深く参加させていただきました。マウラさんのお話で、生理と生殖機能の結びつきが強調されていることで、生理が恥ずかしいものかと思ひ、受診しづらくなる、ということがありましたが、その結びつきが過度に強調されていることが根本的な問題なのかな、と疑問に思いました。私はその結びつきを強調しすぎないことが女性のQOLにとって良い影響を与えると考えていますが、その点について何かご意見をいただければと存じます。

興味深く聞かせていただきました。穢れ思想が月経の受け止めや教育、受診の決定や受診そのものに影響していると思ひます。おふたりの講演を聞いて、医師（特に男性医師）の月経に対する認識が言動に現れることが治療控え・中断につながっているように感じました。

学校と医療が連携し、女性の年齢に合った月経教育をおこなうことが必要であると学ぶことができました。より良い月経教育をすることで、月経異常がある場合に受診行動ができるようになれば、大人になって生殖時期に達したときに病気や不妊などで悩む女性を減らすことができるのではないかと感じました。月経教育が女性の生涯に影響をもたらすと改めて感じました。

貴重なお話を聞かせていただき、勉強になりました。ありがとうございました。

貴重なお話をありがとうございました。わたしは広告代理店に勤務しており、メディアとジェンダーの関係について興味があり本日のセミナーを受講しました（現在担当している商材は女性向けの

ものではないのですが、仕事でもこのような興味を活かしたく機会を狙っているところです)。最後の生理教育にて、うまくいっている事例や、どういう働きかけをしてうまくいったのかなどの情報があればぜひ聞いてみたいです(無理解な人に対してどう働きかけていけばいいのかわからず、参考にしたいです)。

一件男性にわかりやすく情報を伝えていていいなと思った事例がありましたので、よろしければご参照ください(すでにご存じかもしれませんが…)。

<https://note.com/acrosstone/n/nce591c44b6b3>

月経教育の重要性と、生涯に関わってくる問題にも関わらず蔑ろにされていることに憤りを感じました。

市で勤務している助産師(母子手帳発行や妊婦相談などに携わる子育て世代包括支援センターで勤務しています)です。

若年妊婦も多いですし、一定数特定妊婦も支援しています。また、産後1年以内の妊娠(4か月とか…乳児健診前後でまた妊娠されたり)も最近気になっています(妊娠した気持ちで、嬉しかった・予想外だけれど嬉しかった、などであればよいのですが)

時折ですが、匿名で妊娠してしまったがどうしたらいいか、など妊娠SOSで対応しているような内容の相談をもらうこともあります。もちろん、不妊治療をしている夫婦もおられます。

一般的に月経について教育をうける機会は思春期であったり、肝心なところは伝えられていなかったり(避妊であったり、性感染症であったりは性交ということを伝えない学校教育では十分には伝えられていないことと推測しています)

市の方で女性の健康を担う保健師さんと助産師で女性ならではの健康教育を提供することはできないか、という話をしています。なので、今日のテーマは非常に興味深く聴かせていただきました。リプロダクティブヘルス・ライツは誰もがもつ権利ではありますが、その前段階の「知る機会」が十分に得られていない状況では行使できる権利ではないのかなあと感じます。知識として知っているが選択しないのは個人の責任・権利となるかもしれませんが。

ありがとうございました。またこのような機会があった折には参加させていただきたいです。

